

日下部：ありがとうございます。非常に難しい質問ですが、機会と脅威、当然どちらもございます。われわれが得意としているプロジェクトファイナンスにおきましては、機会という意味では、再生可能エネルギーの案件が今後もますます増大していくと思っておりますので、ここは大きなチャンス、収益機会だと思っております。

一方で、石炭火力に代表されるような化石燃料を対象としたプロジェクトに関しては非常に厳しい目で見られておりますので、こちらに関しては今後新たに取り組むというのは非常に厳しくなってくるのかなと思います。お客さまとしっかり対話をして、どういう方向に持っていくのか考えていけないのかなと思っております。

不動産ファイナンスに関して言うと、このコロナの環境下においても、日本の不動産はグローバルな観点で見ても非常に安定したキャッシュ・フローを生み出すマーケットだと考えられていて、この環境下においても新たな投資資金が入ってきている状況でございますので、われわれとしてはそういったものをチャンスと捉えて、積極的にビジネスを展開していきたいと考えております。

質問：共同投資ビジネスにおいて、海外顧客の割合、今後の見通しについてコメントをいただけますでしょうか。

日下部：現状はプロジェクトファイナンスにおいて海外の案件を中心に機関投資家さまとのビジネスをやっておりますが、まだまだ、われわれが投資家という立場に入っている案件が多いため、これからになります。今期に関して言うと、ようやく1件、われわれがFAとして受託した案件の一部を海外の投資家の方に販売したというケースがございますが、まだスタートラインに立ったばかりでございますので、今後頑張って伸ばしていきたいと考えております。

[了]